

ふくい 社会福祉

ふれあいネットワーク

6
No.370

温故知新 ～一途に社協道～

「つながりをカタチに」

岩手県陸前高田市社会福祉協議会 事務局長
大坂 富夫さん

私は、昔から人と人とのつながりを大切にすることをモットーに生活をしてきました。

今回の震災によって、陸前高田市の場合は、社協という土台が物理的、人的にも被害を受け、法人の立て直しや災害ボランティアセンターの運営にも大きな不安を抱えていました。

ところが、「社協のつながり」というのはすごく、今も県内に留まらず、全国から応援に駆けつけていただいています。まさか、社協のつながりがこんなにも強いとは想像もしていませんでした。

特に、福井県内の社協の皆さんとは、今回の震災がご縁で、この2か月の間にたくさんの新しい出会いをさせていただきました。今まで、遠いところにあると思っていた福井を近くに感じる事ができています。つながりを実感するのは、単に距離だけの問題ではないことを改めて感じました。

また、支援に関わってくださる皆さんは、本当に社協のことを温かく応援してくれますし、私たち陸前高田市社協の職員のことにも気遣っていただいています。まるで家族のように接していただいていることが何より嬉しいんです。

その意味で、つながりの大切さやありがたさをこれまで以上に強く感じています。だから、これからは、この「つながり」を何とかカタチにしていきたいと思っています。

余談ですが、福井にも美味しい地酒があると伺っています。いつかまた、ゆっくりと福井の方にお邪魔できたらと思っています。

人のつながりというか、絆って素晴らしい。そして、深いですね。

(略歴)

市役所を退職後、社協の嘱託福祉相談員となって3年。今回の津波(本人曰く「化け物津波」)により自宅と車なども流失。自らも避難所生活の中、急遽、社協の事務局長代理として、他の職員とともに社協の運営に奔走。4月25日からは現職。歌手の千昌夫さんとは幼なじみ。



表紙の企画について

県社協創設60周年という節目の年に、様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

「東日本大震災」被災地支援

県内オール社協で取り組む陸前高田市（岩手県）支援活動

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、3 月 19 日以降、県内市町社協と県社協が、1クール7泊8日の行程で被災地社協での支援業務にあたっています。

今号では、県内社協によるこれまでの取り組み経過や現地での活動の概況を報告します。



1日の流れ（第3～7日目）

時間	行動	場所
7:30	宿舍出発	一関市大東地区
8:00	陸前高田市社協に到着	社協仮事務所／災害ボランティアセンター
8:30	ミーティング	
9:00頃～	担当ごとに活動	社協仮事務所／災害ボランティアセンター、避難所等
16:30頃	業務内容等の整理、取りまとめ	
17:00	ミーティング	社協仮事務所／災害ボランティアセンター
18:30	宿舍へ向け移動	
20:00	夕食、入浴等	宿舍
21:00	派遣職員間のミーティング	
22:00	就寝	

全国の社協による延べ派遣職員数

（平成 23 年 5 月 16 日現在）

福井県内	全国平均	全国合計
347 人	215 人／縣市	14,187 人

ここまでの成果と課題

全国の社協ネットワークを活かして、切れ目なく人材を派遣（支援）できる点は、全国すべての市区町村に組織化されている社協の強みでもあります。

また、同じ社協職員であるため、被災地域の社協（職員）に寄り添うことができたり、取り組む業務や活動を短時間で理解し、イメージを共有しやすい点、さらには課題解決に向けて協同しやすい点などは、社協だからこそ担える役割の一つになっています。

一方で、派遣が一定期間のローテーションを基本とするため、支援に関する業務が標準化されていない場合などは、関わる社協職員によって問題意識や対応に温度差が出たり、引継ぎのタイミングで情報が十分に伝わらないなど、具体的な問題点も顕在化してきています。

地域福祉の推進を目的に掲げる「社協」として、被災した住民の暮らしを下支えしていく支援のあり方を常に意識し、具体的なアクションで住民のしあわせづくりを実現していけるかどうかは、今社協に投げかけられている大きな課題かもしれません。

現地出発（帰路）

行程最終日。午前 8 時頃に宿舍を出発。一路福井へ。午後 7 時 30 分頃県社協に到着。

現地到着

東北自動車道（一関 I C）を降りて沿岸部をめざし、陸前高田市内へ。災害対策本部等の主要機関等の地理的状況を把握。午後 2 時頃に陸前高田市社協が開設する「災害ボランティアセンター」（同市横田地区）に到着。午後 3 時から業務の引継ぎを行う。

現地への出発

午前 7 時。現地（岩手県陸前高田市）に向け出発。新潟からは磐越自動車道、東北自動車道を走行。車中では現地や県社協との連絡調整を行う。

前泊

午後 10 時。前泊地である新潟市内に到着。宿舍にて、前クールからの情報等をもとに翌日からの活動方針や内容についてミーティング。

出発式

午後 3 時。派遣メンバーが県社協に集合。メンバー紹介、激励（栄養ドリンク贈呈）の後メンバー代表から決意表明。県社協職員らに見送られ、北陸自動車道で一路新潟へ。

第8日目

第3～7日目

第2日目

第1日目

県内社協によるこれまでの取り組み経過

(平成23年5月10日現在)

期日	おもな取り組み
3月11日(金)	●東海北陸ブロック幹事社協(富山県・三重県)から社協動向情報収集 ●週末(12、13日)の連絡体制を整え、市町社協に現況報告(ファクス)
12日(土)	●県災害ボランティアセンター連絡会出席(事務局長、職員) ●県先遣隊(現地調査)への職員派遣要請(県社協職員1名の派遣決定) ●「東日本大震災支援に関する社協情報」[メール版・ブログ版]配信(以降、随時)
14日(月)	●県社協で「緊急職員会議」を開催
15日(火)	●県社協「正副会長会議」を開催(震災動向の把握等) ●全社協「ブロック幹事社協会議」で支援担当エリア(市町村)が決定 ●県先遣隊(東北3県別)「宮城ルート」に県社協職員1名が帯同
16日(水)	●市町社協「緊急事務局長会議」の開催(3月25日)を決定
17日(木)	●ブロック幹事社協(富山県・三重県)現地調査日程が決定(19～21日) ●県先遣隊(宮城ルート)派遣の県社協職員の岩手県入りを決定
18日(金)	●「大震災対策支援県連絡会議」に県社協伊藤副会長、事務局長出席
19日(土)	●県社協職員が岩手県でブロック幹事社協に合流
20日(日)	●県社協職員が岩手県社協および陸前高田市社協の現況等を調査 ●岩手県陸前高田市社協支援メンバー(第1クール)を決定
22日(月)	●市町社協に職員派遣の協力を要請(派遣候補者選定を依頼)
23日(水)	●県社協「社会福祉基金等運営委員会」で震災への義援金拠出を答申 ●県社協「理事会・評議員会」で義援金拠出を承認 ●陸前高田市社協支援業務への職員派遣(第1クール:県社協4名)
24日(木)	●会社協力「県・指定都市社協常務理事・事務局長会議」に事務局長が出席 ●支援第1クールが岩手県社協での「合同打合せ会議」に出席
25日(金)	●市町社協「緊急事務局長会議」を開催 ●支援第1クールが陸前高田市社協支援業務を開始[～30日]
28日(月)	●市町社協からの現地職員派遣に係るローテーション調整を開始 ●支援第2クール(県社協、敦賀市、あわら市)派遣[～4月4日]
4月2日(土)	●支援第3クール(県社協、鯖江市、勝山市)派遣[～9日]
7日(木)	●支援第4クール(県社協、鯖江市、越前市)派遣[～14日]
12日(火)	●支援第5クール(県社協、あわら市、池田町、越前町)派遣[～19日]
13日(水)	●現地支援に係る「北陸3県社協調整会議」に事務局長、職員が出席
15日(金)	●陸前高田市応援ステッカーの作成[18日に現地社協へ納品]
17日(日)	●支援第6クール(県社協、福井市、勝山市、越前町)派遣[～24日]
22日(金)	●支援第7クール(県社協、勝山市、越前町、おおい町)派遣[～29日]
23日(土)	●陸前高田市社協「災害ボランティアセンター」が横田地区に移設
25日(月)	●県社協事務局長が岩手県社協(支援金持参)、陸前高田市社協を激励
27日(水)	●支援第8クール(県社協、鯖江市、坂井市、美浜町)派遣[～5月4日]
5月2日(月)	●支援第9クール(県社協、坂井市、永平寺町、美浜町)派遣[～9日]
7日(土)	●支援第10クール(県社協、越前市、坂井市、池田町)派遣[～14日]
10日(火)	●「市町社協会長・事務局長会議」を開催(災害支援の現況報告等)

現地でのおもな業務

1 法人運営

- 役員会の運営や民生委員等の関係機関との連絡調整、渉外活動
- 会計処理の復元、日常的な経理処理事務
- 各種規程の整備、法令手続き等の処理事務
- 職員の労務管理(勤務シフトの調整等)業務



早期の法人立て直しや今後の方向性を考えたり、核になって継続的に支援に関わる人材(岩手県内社協)が必要だと思いました。

宮口 敦司さん(鯖江市社協:第3クール)



災害ボランティアセンターに注目は集まっていますが、地域福祉を再興するロードマップづくりの必要性も強く感じました。

平田 豪さん(あわら市社協:第5クール)



ブロック派遣のあり方(日程や支援業務の標準化、共通認識づくりなど)を整理することは、地元社協との連携を考える上でも大切なことだと思います。

家光 薫さん(美浜町社協:第8クール)

2 災害ボランティアセンターの運営支援

- 市民や市内関係機関等からのニーズの掘り起こしと集約
- ボランティア活動希望者とニーズとの調整(マッチング)
- ボランティア活動全般に関する管理
- 関係機関・団体との連絡調整

○ ボランティア活動者数 5,656人(3月23日～5月9日)
(参考)岩手県内ボランティア活動者数 62,880人



発災後、2～3週の頃でしたので、何をしても問題や課題がついてまわりましたが、とにかく地元社協の皆さんが疲れないようにすることに努めました。

浦谷 一徳さん(敦賀市社協:第2クール)



嘱託職員でありながら、これまでに経験のない業務に懸命に取り組む職員の皆さんの姿に熱くなりました。現地入りまでは不安もありましたが、今は「来て良かった」と強く思います。

森田 真弓さん(池田町:第5クール)



短いスパンでのブロック派遣はかえって地元社協に負担を与える側面もあるので、派遣期間の設定などは、今後も検討が必要だと思います。

小柏 博英さん(福井市社協:第6クール)



現場に向向き、住民の方の話を直接聞いたことも良かったですが、地元の方に寄り添うことの難しさやコミュニケーションの大切さも改めて痛感しました。

大宮 淳さん(おおい町社協:第7クール)

3 災害特例「緊急小口資金」貸付業務に対する支援

- 貸付制度の利用広報、貸付相談、貸付審査、貸付手続き等
- 貸付相談を通じた市民ニーズの把握、ボランティアセンターとの連絡調整

○ 生活福祉(緊急小口)資金貸付件数 153件(3月23日～5月9日)

未来に向かって絆を深め、一致団結!! 福井県民児協設立30周年記念大会

民生委員・児童委員の日の5月12日(木)、フェニックス・プラザ大ホールにおいて、福井県民生委員児童委員協議会設立30周年記念大会が開催されました。会場には、福井県内の民生委員児童委員約1,700名をはじめ、多数の来賓が出席する中、清川忠公会長は、「先人の業績を糧とし、制度100周年に向け、より一層積極的に地域福祉活動を展開したい」と挨拶しました。



▲共催の県社協齋藤多久馬副会長が挨拶



▲永年活躍する委員へ西川知事から感謝状が授与されました。



▲大会宣言では、先人の努力を引き継ぎ、更なる活動を推進することを誓いました。



▲受賞者131名を代表して謝辞を述べる丸子要氏(あわら市)

続いて、在職期間が9年以上の単位民児協会長4名に知事感謝状が授与され、在任期間が9年以上の民生委員児童委員127名に清川大会長から表彰状が授与されました。また、式では、平成3年に実施した「父子家庭の県内一斉調査」や平成13年の「全国民生委員児童委員大

会の開催」など、県民児協30年間の活動を振り返りました。最後に、赤崎雅博理事が大会宣言(案)を読み上げ、住民誰もが安心して生活できる地域社会にしていくなために、日常的な見守り活動を通じて地域に密着した民生委員児童委員活動を展開するとし、「災害時要援護



講師 柳田邦男氏

式典後は、ノンフィクション作家で評論家の柳田邦男氏が「大人の再生、子どもの成長」と地域社会のあり方を考える」と題して記念講演を行いました。

者を住民と共に支え、助け合える地域づくり活動を進める」などの7つの重点活動が採択されました。

福祉サービスの質の向上のための弛まぬ取り組み

～足羽ワークセンター第1事業所における第三者評価結果概要～

このほど、障害福祉サービス事業所「足羽ワークセンター第1事業所」が福祉サービス第三者評価を実施しました。今回、利用者へのサービスの向上に日々取り組んでいる当施設のその主な評価結果および関係者のコメントをご紹介します。なお、詳細は、本会ホームページに掲載しています。是非、ご覧ください。

特に評価が高い取り組み等

○理念・基本方針の共有および計画の策定について

法人の理念を法人・施設の事業計画、ホームページ等に明文化し、計画書を全職員に配布しており、基本方針は毎日の朝礼時に唱和している。また、事業計画は部署ごとで意見を集約し、これを踏まえ立案するなど組織的に取り組むほか、職員会議等における定期的な進捗報告のほか見直しについても検討している。

○職員のスキルアップ及び利用者の安全管理について

職員が必要な資格を取得できるよう施設として積極的に支援するほか、外部研修への参加を奨励している。また、利用者の安全確保のため職員による携帯電話メールでの緊急時体制を整えており、利用者の外出や帰省時には外出計画どおりであるか居場所の確認も徹底している。

○利用者情報の共有及びサービスの開始時等の取り組みについて

個人情報保護規程に基づいた利用者に関する情報の共有化を図るためのパソコンシステムの利用や携帯電話によるメール配信などが行われている。サービスの開始に際して、契約書等の書面だけでなく、利用者等に分かりやすく説明するための職員の顔写真入りの組織表や生活の流れをイラストや写真で紹介する資料を用意するなど利用者に配慮した取り組みがなされている。また、退所した利用者のケアの一環として「フレンズの会」が組織され、旅行などが企画されている。

○利用者を尊重したサービスの提供について

利用者とのコミュニケーションを図るため、利用者独自の表現方法などを記載した「情報シート」の活用や日課や予定を写真やイラストで示すなどの工夫がなされている。また、メイクアップ教室等を開催するなど利用者の意思や意向を尊重した自立支援が実践されている。

今後期待される取り組み等

○理念・基本方針の利用者、家族への周知について

基本方針について、ホームページ、パンフレット、広報誌等に記載し、適宜利用者家族等に周知されることが望ましい。また、理念・基本方針について、利用者をはじめ家族に対して施設の取り組みを十分理解してもらう上で、様々な機会や方法を通じて周知徹底されたい。

－ 福井県社会福祉協議会では、福祉サービス第三者評価の計画的な取り組みを推奨しています－

県内オール社協が課題を共有

社協会長・事務局長会議を開催

「平成23年度市町社協会長・事務局長会議」が17市町社協と県社協の会長、事務局長等参加のもと、5月10日（火）に開催されました。

◆震災に伴う支援活動の現況を共有

今回の会議では、平成23年3月11日の「東日本大震災」を受けて取り組んでいる被災地支援活動の全体像のほか、社協を取り巻く課題や政策動向を相互に共有しました。

特に、震災に関する支援活動では、会議開催時点までの期間（全10クール）に、12市町社協24名の職員を派遣していたこともあり、現地での支援業務の内容や課題等について、包括的な報告を行いました。

○計画的な職員のスキルアップに向けた取り組みについて

職員の教育・研修について、個々の経験や役職等のレベルに応じた年間教育、研修プログラムの作成が望まれる。また、レポート作成の評価や研修参加後の成果の分析を行い、職員の一層のスキルアップにつながるような取り組みを期待したい。

○利用者のプライバシー保護等の充実に向けた取り組みについて

利用者の様々な生活場面を想定したプライバシー保護に関する規定等を整備し、職員に周知徹底するとともに、施設利用を通じた利用者等からの苦情等にかかる内容やその結果について、プライバシー等を十分考慮の上、事業報告書や広報紙等で公表することが望まれる。また、利用者が施設を退所する際に利用者や家族が退所後にも相談に응ずることについて、予め書面で周知することを検討されたい。

○利用者の薬事情報の共有化等に向けた取り組みについて

薬事に関して事業所における全職員が利用者一人ひとりの服薬情報を共有することができるような工夫のほか、薬の使用状況に関する記録の作成が望まれる。

《評価結果に対する関係者のコメント》

当事業所は平成20年4月に障害者自立支援法に移行し、その移行計画実施の中で「福祉サービス第三者評価基準」を考慮しながら、利用者さまの生活基盤（ハード部門）を整え、また、支援サービス体制を整える過程では、支援過程の中で気持ちや学びを、機会を捉えて従事者と共有化に努めてまいり、平成22年12月に「福祉サービス第三者評価」を受審致しました。受審結果は総評の中で想定以上の評価をしていただき、評価結果に甘んじることなく謙虚な気持ちで受け止め、研鑽に努めたいと思います。

また、課題につきましては法人理念やサービス提供指針に基づき、中長期計画や事業計画に組み込み、全従事者で利用者さまの願いの具現化に努めたいと思います。

なお、当事業所の強みである就労関係の調査項目については、今後策定される新しい「福祉サービス第三者評価指針」に基づき、利用者の方々のニーズに適応した、質と量を備えた支援サービスが実現できるよう取り組んでいきたいです。



◆設立後初となる「県市町社協会長会」も開催

今回の会議では、会長分散会と事務局長分散会を設け、予め設定した課題についての協議も行いました。

とりわけ会長分散会は、今年1月に設立した「福井県市町社会福祉協議会会長会」も兼ねており、平成23年度の具体的な事業計画について協議を行うとともに、**震災に伴う被災地の社協に対する復興支援のための募金運動に役職員をあげて取り組んでいくことが、全会一致で確認されました。**

今回の会議を通じて、改めて県内のオール社協で取り組むべき課題や方向性が共有されました。

— 福祉事業所の皆様へ —

利用者、家族の想いが届いていますか？

福祉サービスを利用している本人、その家族等が要望等の想い（苦情を含みます）を気兼ねなく伝えられ、これを迅速かつ適切に応える環境や仕組みを事業所として整えることは、サービスの量・質を高め、また、双方の信頼関係を強くすることにつながります。

苦情解決体制等に関する訪問相談受付中

福井県運営適正化委員会では、このような苦情解決等に向けた体制・手続き等の取組みについて事業所に訪問し、無料でご相談等に応じています。

福祉事業所の皆様、遠慮なくご活用ください。

《お申込み（お問合せ）は、こちらまで…》

「福井県運営適正化委員会」事務局

電話 (0776) 24-2347 / Fax (0776) 24-8942

e-mail kujyo@f-shakyo.or.jp

介護実習・普及センターからのお知らせ

福祉用具・住宅改修基礎研修

福祉用具・住宅改修に係わる専門職のみなさん、4日間にわたり福祉用具・住宅改修に関する基礎知識・技術をみっちり学んでみませんか？

	カリキュラム	嶺北会場（定員 30 名）	嶺南会場（定員 20 名）
1 日目	介護保険制度の住宅改修助成制度 福祉用具のリスクマネジメント	7月22日（金） 10:00～16:00 県社会福祉センター	7月9日（土） 10:00～16:00 敦賀市あいあいプラザ
2 日目	身体特性と住環境整備の留意事項 「日常生活の基礎知識」「高齢者に多い疾患」	8月17日（水） 10:00～16:00 県社会福祉センター	8月27日（土） 10:00～16:00 嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター
3 日目	住宅改修の基礎知識 「住宅改修の基本的な考え方と基本知識」「見積書・図面」	9月15日（木） 10:00～16:00 県社会福祉センター	9月10日（土） 10:00～16:00 美浜町はあとびあ
4 日目	住環境プランニング	10月12日（水） 13:00～16:30 県社会福祉センター	10月29日（土） 13:00～16:30 敦賀市男女共同参画センター

介護職のための福祉用具操作技術研修

介護職のみなさん、福祉用具の選定方法や操作技術、介助法について実践を交えながら詳しく学んでみませんか？

テーマ	嶺北会場	嶺南会場
持ち上げない介護技術	7月28日（木）（定員 40 名） 9:30～16:00	7月26日（火）（定員 20 名） 9:30～16:00
排泄関連用具の選定と介助方法	10月27日（木）（定員 20 名） 10:30～17:00	10月11日（火）（定員 20 名） 10:30～17:00
福祉用具操作技術【移乗編】	11月9日（水）（定員 20 名） 9:00～17:00	11月8日（火）（定員 20 名） 9:00～17:00
個浴での入浴介助法	12月14日（水）（定員 20 名） 13:00～17:00 TOTO 福井ショールーム	12月9日（金）（定員 20 名） 13:00～17:00 タカラスタндарт敦賀ショールーム

※会場の記載の無い研修は、嶺北「福井県社会福祉センター」、嶺南「嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター」で開催されます。

問合せ・申し込み先

嶺北会場：福井県介護実習・普及センター

TEL0776-24-0086

嶺南会場：嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター

TEL0770-52-7832

東日本大震災義援金にご協力ください。

この義援金は災害でこまっている人を支えます。
全額、被災者にお届けします。



災害義援金受入れ口座

金融機関	支店名	口座番号	名義等
福井銀行	学園出張所	普通預金 1155140	災害義援金 社会福祉法人 福井県共同募金会
福邦銀行	本店営業部	普通預金 5495678	社会福祉法人福井県共同募金会
福井信用金庫	本店営業部	普通預金 4309909	社会福祉法人福井県共同募金会
J A・信連	本所	普通預金 0316115	社会福祉法人福井県共同募金会 ※通信欄に「東日本大震災義援金」と記入してください
ゆうちょ銀行		00750-4-350	社会福祉法人福井県共同募金会 ※通信欄に「東日本大震災」と記入してください

※県内の各銀行の本・支店扱いの送金手数料は免除です。

※口座に送金された災害義援金はその振込金受領書をもって税制上の優遇措置（所得税、法人税、個人住民税）の適用対象となります。

私たちが お近くへお伺いします。福祉の仕事のお助け隊 キャリア支援専門員。

FUKUSHI-JOB SEARCH 福祉のお仕事

移動相談会のお知らせ

県内各地で、福祉の仕事に関心のある方、福祉分野への就職や転職をお考えの方などを対象に、福祉の仕事や資格、福祉職場への就職について、キャリア支援専門員が相談をお受けします。
この機会をぜひご活用ください。

事前申込
不要

無料
相談会

平成 23 年度 日程・会場

日程・曜日・時間	会場	住所
毎週火曜日 13:00～16:00	武生西公民館・別館	越前市中央2丁目8-16 ハローワーク武生南側
毎週水曜日 13:00～16:00	三国社会福祉センター 1階会議室	坂井市三国町中央1-6-3 ハローワーク三国近く
毎週金曜日 13:00～16:00	大野地域職業訓練センター 2階第2研修室	大野市中挟1-1601-1
第2・第4木曜日 13:00～16:00	小浜地方合同庁舎 4階会議室	小浜市後瀬町7-10 ハローワーク小浜 4階

上記の他に、敦賀市福祉総合センターあいあいプラザ内（敦賀市東洋町4-1）でも実施します。（不定期）

お気軽にご相談ください。

個人向け支援（職業相談・求人紹介・資格取得・キャリアアップ）
事業所向け支援（人材紹介・求人広報・人材確保・人材定着）

問い合わせ先

福井県社会福祉協議会 福井県福祉人材センター
福井県福井市光陽2丁目3-22
TEL (0776) 21-2294 FAX (0776) 24-4187

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

4月18日
福井テレビジョン株式会社様（福井市）
ドリームサーカス福井公演 観賞券 2,500枚
障がい者（児）福祉施設および児童福祉施設へ



4月19日
株式会社 ムラタ様（福井市）
車いす5台
高齢者施設へ



4月19日
福井ミラクルエレファント（福井市）
観戦チケット150枚
児童福祉施設へ



浅水町内会有志一同（福井市）10,380円
本源寺・檀家（織田町）50,000円

読者の皆さまへのご協力をお願い

本年7月24日の地上デジタル放送への完全移行にあたり、ご近所の独居高齢者、高齢者夫婦世帯等の方々が遅滞なく地上デジタル放送を視聴できるよう、一言お声かけいただくなど、本紙読者の皆さまの温かいお心遣いをお願いいたします。

地上デジタル放送に関する相談窓口連絡先 地デジコールセンター（デジサポ）Tel.0776-31-0101

介護支援専門員試験準備講習会

合格のための
ケアマネ受験セミナー！

今年10月に開催される介護支援専門員実務研修受講試験に備えるための準備講習会を開催します。

日時と会場	1日目	2日目	3日目	4日目
	平成23年 7月 2日（土） 8:50～16:30	平成23年 7月 9日（土） 9:50～16:30	平成23年 7月12日（火） 9:50～17:00	平成23年 7月18日（月） 8:50～16:30
	福井県社会福祉センター	福井県社会福祉センター	サンドーム福井	福井県社会福祉センター

☆各日内容は異なります。1日単位の参加も可。

対象者 「介護支援専門員実務研修受講試験」の受験資格を有する方 各日定員90人

受講料 1日につき5,000円（テキスト代は別）

テキスト 「(五訂) 介護支援専門員基本テキスト」(税込7,350円) (財)長寿社会開発センター発行を使用します。

申込締切 6月27日（月）まで

**申し込み
お問合せ先** 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 福祉の人づくり支援課
TEL 0776-21-2294 FAX 0776-24-4187
E-mail kenshu@f-shakyo.or.jp

ホームページから詳細が
ご覧いただけます。

<http://www.f-shakyo.or.jp>

未来に笑顔



Profile

小川 やよい さん

(福) わかたけ共済部 太子園
介護職10ヶ月
介護福祉士の資格を取得するため日々努力をする頑張り屋さんです。

このコーナーでは、「笑顔（スマイル）」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

おじいさんの病気がきっかけで福祉の職場にめばえる

以前は、福祉とは全く関係のない職場で働いていましたが、大好きなおじいさんの病気がきっかけで、福祉の仕事に興味を持ち始めました。ちょうど今の仕事を続けることに疑問を持ち始めたところだったので、働きながらヘルパー2級を取得する事を決意。

早速、夜間のヘルパー講座を実施している機関を探すこととしましたが、福井市内にしか受講できるところはなく、片道40分ぐらいの道のりとなりました。仕事を終えてからの講座となるため、授業の開始時間に間に合うように毎回、高速道路を利用し授業に臨みました。

念願の福祉の世界へ

ヘルパー2級を取得後は、転職を真剣に考え就職活動を行う。福祉の職場は夜勤があるため、家族の協力が転職への大きな力ギとなっていました。福祉の職場で働く決意の固さを訴え、夜勤に難色を示していた家族の理解を取り付けました。

いざ、介護



の仕事についてみると仕事の流れが今までの仕事は全く違い、戸惑うことばかり。しかし、介護の仕事が楽しく、あっという間の10ヶ月だったそうです。

とまどいながらも、今の自分にできることを一生懸命やろうと考え、利用者さんに毎日明るく振舞うようにすると、それまで反応のなかった方も、声かけに手を動かしてくれるなど、少しずつ私を受け入れてくれるようになりました。介護って、表情ひとつで心が通い合うんだということを実感しました。

介護福祉士試験合格を目指して

利用者さんに「あなたが頑張っている姿はみんなに届いているよ。もう一人前やわ」と言われ、この一言がとてもうれしく、ずっと大切にしています。

当初は、仕事を覚えるのに必死で利用者さんに受け入れてもらえないこともありましたが、今では自分の心にも余裕ができ、コミュニケーションがとれるようになりました。これからも利用者さんの小さな変化にも気づけるようなきめ細かな介護が出来る介護職になりたいと思っています。

また、福祉の仕事にとてもやりがいを感じているので信頼される人材になることも目標にしています。このごろは、祖父母にも介護のアドバイスが出来るようになりました。次の目標は介護福祉士の資格を取得することです。

笑顔の素

「利用者さんの笑顔です。」

一緒にお話をしていて、笑顔を見ると私の心も温かくなります。



取材を終えて

利用者さんと話をしている小川さんからは、「人が大好き、介護の仕事が好き」という思いが体全体から伝わってきます。優しい声と素敵な笑顔がとても印象的でした。

未来の介護福祉士を目指して頑張ってください。

